



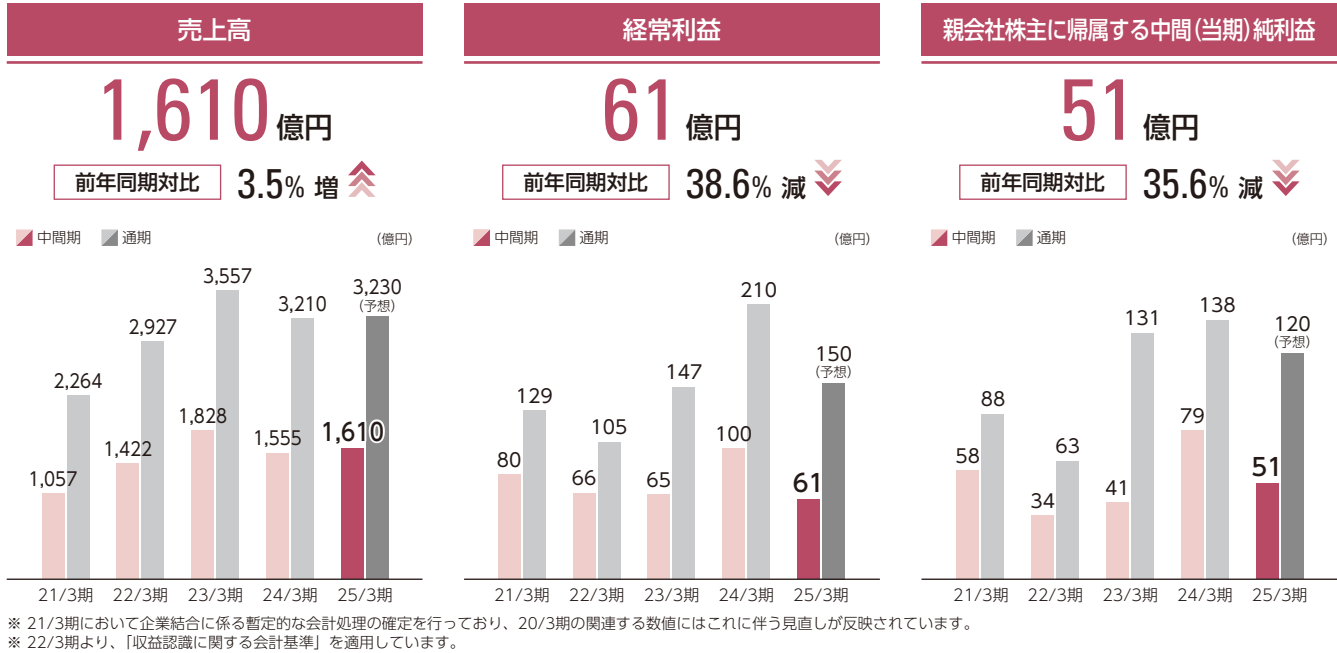
KYOEI STEEL

証券コード: 5440

第81期 中間株主通信

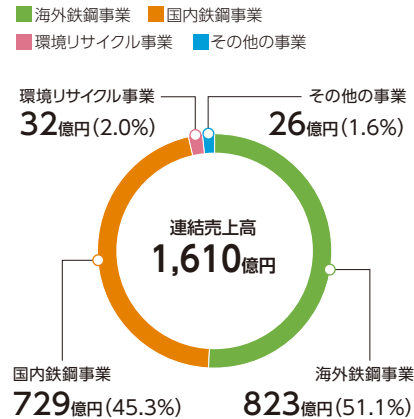
2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

❖ 共英製鋼株式会社



※ 21/3期において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、20/3期の関連する数値にはこれに伴う見直しが反映されています。
※ 22/3期より、「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

セグメント別業績



		前中間期	当中間期	
		金額(百万円)	金額(百万円)	増減率(%)
国内鉄鋼事業	売上高	80,132	72,902	△9.0
	営業利益	12,405	7,872	△36.5
海外鉄鋼事業	売上高	69,819	82,315	+17.9
	営業利益	△2,296	△1,590	－
環境リサイクル事業	売上高	3,174	3,183	+0.3
	営業利益	375	357	△4.9
その他の事業	売上高	2,413	2,636	+9.3
	営業利益	8	205	+2,337.7
調整額		△552	△928	－
計	売上高	155,538	161,037	+3.5
	営業利益	9,941	5,915	△40.5



株主の皆様へ

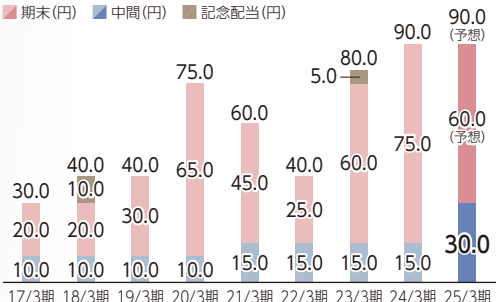
株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。第81期中間期（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の業績につきまして、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 廣富 靖以

当期の中間配当および期末配当予想について

当期の1株当たり中間配

当につきましては、期初予想通り30円とさせていただきました。期末配当につきましても、期初予想通りの60円とし、通期で90円を予想しています。



第81期(2025年3月期)中間期の業績について

前年同期対比増収減益、
国内は出荷量減少が影響するも
海外は回復基調

国内鉄鋼事業については、建設現場の人手不足や今年の酷暑による工期の遅れなどにより需要が低迷し、製品出荷量は前年同期対比で8.1%減少しました。原材料である鉄スクラップの価格は夏以降下落

基調で推移し、その中で出荷単価の維持に努めましたが、利益の源泉となる売買価格差（製品価格と原材料価格との差額）は縮小したことから、前年同期対比36.5%の減益となりました。次に海外鉄鋼事業についてですが、ベトナム拠点は、中国経済の低迷とそれに伴う鋼材輸出の影響で競争環境は依然厳しいものの、政治的要因で低迷していた建設需要が回復の兆しを見せ、出荷量は前年同期対比で増加し、赤字幅を縮小させることができました。

北米においては、カナダ拠点は建設需要が引き続き好調で業績は順調に推移しましたが、米国拠点は市況がやや軟化する中、火災事故以降の操業の安定化に時間を要したことなどから業績は低調に推移しました。

環境リサイクル事業では、医療廃棄物処理における競合先との価格競争の激化や、処理設備の不調によるコストの増加が影響し、増収ながら減益となりました。

通期の業績予想について

経常利益予想を150億円に下方修正 国内は出荷量減もメタルスプレッドの 拡大で利益確保 海外は厳しい情勢ながら回復へ

国内鉄鋼事業については、中間期に続き、建設や物流現場における人手不足による工事の遅れなどから、建設用鋼材の需要は引き続き低調に推移すると予想されます。一方、原材料である鉄スクラップの価格は当初想定を下回る水準で推移する見通しです。この結果、売買価格差の拡大により、通期の業績は概ね計画通りに進捗すると見込んでいます。

海外鉄鋼事業全体としては当初計画を下回る見通しです。その背景には、中国の不動産不況の影響による競争環境の激化や製品市況の低迷があり、ベトナム北部拠点の業績が引き続き低調に推移すると見込まれることが挙げられます。また、米国拠点ではコスト削減に取り組んでいるものの、黒字転換には至らない状況が続く見通しです。しかしながら、各拠点において、業績改善に向けた取り組みを積極的に進めており、ベ

トナム南部拠点では販売数量の回復や製造コスト削減の成果が表れはじめ、通期の黒字転換の目途が立ちつつあります。さらに、カナダ拠点では市況の回復に伴う出荷量の増加や、今春から新たに生産・販売を開始した細物鉄筋の販売が好調であることなどから、好業績が期待されています。

以上により、2025年3月期通期の業績予想については、連結売上高3,230億円、連結営業利益150億円、連結経常利益150億円、親会社株主に帰属する当期純利益120億円と予想しています。

中期経営計画「NeXuSⅡ 2026」の進捗について

中計初年度の事業環境は想定以上に 厳しいが、外部環境の変化に対応し 計画達成を目指す

2024年4月に中期経営計画「[NeXuSⅡ 2026]」を発表してから半年が経過しました。国内外ともに厳しい事業環境の中で、初年度は計画の下方修正を余儀なくされるスタートとなりました。しかし、こうした外部環境の変化に対応しながら目標達成を目指すべく、当社グループでは現在さまざまな施策に取り組んでいます。ここでは、その中でも特に注力している3つの取り組みをご紹介します。

まず、国内鉄鋼事業におきましては、スクラップ市況が弱基調で推移し、需要がどの程度回復するか見通せず、ライバルメーカーとの価格競争が厳しくなる中、売買価格差の確保が難しい状況となっています。最大需要地である首都圏におけるプレゼンス向上に努めるほか、お取引

先一社一社との対応を丁寧に行い、基本に立ち返ったきめ細かな営業活動を展開し、契約量の確保に努めていきます。また、物流における2024年問題へ対応するため、名古屋事業所と山口事業所において新しい倉庫の建設を具体化し、デリバリー力のさらなる強化に取り組めます。

次に、ベトナム北部のVIS社で建設中の新しい圧延工場についてです。2024年9月に大型台風が直撃しましたが、幸いにも大きな被害を受けず、現地社員の尽力により工事は順調に進行しています。厳しい競合環境の下、新工場の完成と稼働開始に向けた準備を進めています。

引き続き、北米事業の強化と合わせ、海外鉄鋼事業の収益力向上に努めます。



▲ VIS社新工場建設の様子

さらに、当社グループは、「地球環境との調和」を引き続き重要なテーマとして掲げ、積極的に取り組んでいます。2030年の目標として掲げている「CO₂排出量の2013年度対比50%削減」の実現に向けて、燃料転換の推進や太陽光発電設備のさらなる導入を検討しています。また、ゼロエミッションを目指し、スラグの有効活用に関する研究では、サステナブルテクノロジー研究セン

ターでの取り組みに加え外部教育機関との産学連携を強化しています。

最後に、私たちは「鉄づくりを中核とした資源循環型事業を通じて社会に貢献する」という企業理念の下、これまで77年の歴史を重ねてきました。今、ベトナム事業など海外鉄鋼事業は厳しい局面にあり、国内鉄鋼事業も先行きは決して安泰ではありません。厳しい外部環境変化は当社グループだけでなくすべての会社にも影響を与えていきます。そうした中で当社グループが激動の世界を生き抜くためには、現状の事業を地道に積み上げると同時に、新たな取り組みや改善を進めることが重要と考えています。各部門間の連携を強化し、業務の効率化や経営基盤の強化に努め、より強固な収益体質の実現を目指してまいります。

株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



もっと知りたい 共英製鋼

Vol.10 DXの取り組み編

この度、鉄スクラップの自動解析AIシステムを開発する(株) EVERSTEELと提携し、枚方事業所にて「鉄ナビ検収AI」をテスト導入しました。熟練検収員のノウハウを落とし込んだ画像解析技術を開発・活用することで検収作業の標準化・効率化を実現していきます。

Q 鉄スクラップの検収作業とは？

A 鉄筋の主原料である鉄スクラップは、多種多様な形状で、日々船やトレーラーで運ばれてきます。鉄スクラップの荷下ろし時に、検収員が目視で等級分けを行い、買い取り価格の査定と、禁忌物や不純物の発見・除去を行います。



鉄スクラップの等級規格

鉄スクラップは、厚みやサイズなどで品種や等級が分けられ、品質の高い鉄スクラップほど高値で取り引きされます。



HS



H2~L1の混載

Q なぜ人工知能 (AI) を導入することになったのですか？

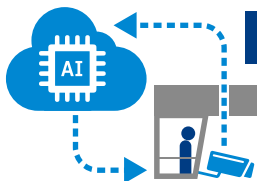
A 難易度が高い作業を行う検収員の育成には数年単位の時間を要するため、技術の継承、今後の人手不足対策の一つとして導入に至りました。

従来



難易度の高い作業であり、判定のバラツキや不適合品の見逃しのリスクを回避するための労力が必要

カメラと人工知能 (AI)



鉄スクラップをカメラで撮影し、人工知能 (AI) が厚み、色、形状により査定し検収員をサポート



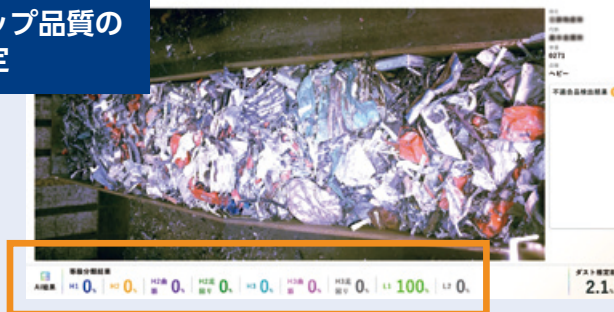
「鉄筋ができる」までの動画はこちらから！



Q 鉄スクラップの自動解析AIシステムで何ができるのですか？

A カメラで撮影された画像データをもとに、人工知能 (AI) がスクラップの品質の推定、異物の検知を行うため、査定のバラツキ、異物混入リスクを軽減します。

スクラップ品質の割合推定



分析結果を確認する検収員

画像認識による異物検知



不適合品

銅・鉛などの非鉄金属や爆発の可能性のある密閉物は不適合品として、取り除く必要があります。



鉛スクラップ



モーター類



開発当初はイレギュラー値が頻発して調整が大変でしたが、約半年かけて数千枚の画像を学習させた結果、精度が熟練検収員と近い水準まで高まり、ようやく実用化が見えてきました。今後は実用化に向けてさらに精度の向上を図るとともに、検収業務の省力化を目指します！

枚方事業所製造部 小川課員

米国拠点の設備投資計画を公表

2024年7月19日、ビントン・スチール社（米国テキサス州）の製鋼工場の新設および圧延工場設備の一部改造についての基本計画を公表しました。課題であった設備の老朽化対策として約350億円を投じ、大幅なコスト削減と生産・出荷量の拡大を図ることで、収益の改善・安定化を目指します。稼働時期は2027年1月の予定です。



▲ビントン・スチール社 外観

ビントン・スチール社

日本コンクリート工学会 松山大会に出展

名古屋事業所は、2024年6月に行われた日本コンクリート工学会松山大会に企業ブースを出展しました。ブースでは、鉄筋を使ったレクリエーションを行い、ネジ節鉄筋や、エシカルスチールをPRしました。



▲日本コンクリート工学会での当社出展ブース

個人投資家向け IR説明会を開催

2024年9月14日に行われた大和IR(株)主催の個人投資家向けIR説明会に社長の廣富が登壇しました。約200名の出席者に向けて、現在の国内外の事業環境や電炉業界における当社グループ独自の強み、中期経営計画「NeXuS II 2026」などを説明いたしました。

当社ホームページ「投資家情報」から録画、書き起こし記事、資料をご覧ください。



▲個人投資家説明会

山口事業所 新事務所棟が竣工

2024年8月、山口事業所では、老朽化していた事務所と厚生棟を刷新・集約した新事務所棟が竣工しました。

執務エリアがワンフロアとなり、コミュニケーションがより活発化し効率的に働ける場となりました。また、基礎躯体・内装デザインに自社グループ製品を取り入れ、当社グループのアイデンティティを象徴する建築となっています。

今後も職場環境の整備を続け、企業の成長の源泉となる従業員を支えることで、さらなる企業価値向上を目指します。



▲山口事業所 新事務所棟

雑誌『近代建築』の表紙を飾りました！

山口事業所の新事務所棟が、近代建築社発行の『近代建築』2024年10月号にて紹介され、その表紙に採用されました。



オリーブ収穫祭開催

2024年10月、山口事業所近郊の遊休地に植樹したオリーブの実の収穫作業を行いました。台風や酷暑などの厳しい天候にも負けず、樹木には数えきれないほどの実がなり、想定以上の収穫量となりました。収穫したオリーブの実はこの後、オリーブオイルに加工される予定です。今後も地域活性化に貢献できる農園づくりを続けていきます。



▲オリーブ収穫風景

(株)キノテックとの共同研究を開始

2024年7月、環境に配慮した亜鉛リサイクルの研究を行う(株)キノテックへの出資、共同研究契約の締結を行いました。鉄鋼事業におけるゼロエミッションを目指すうえで必要な技術とともに育てていきます。

統合報告書を発刊



2024年10月、統合報告書を発刊しました。トップメッセージなどで経営陣の考えや想いをお伝えするとともに、事業戦略の背景、サステナビリティ課題への対応についても掲載しています。ぜひ一読ください。

◀ 統合報告書 表紙



連結貸借対照表(要旨)

科 目	前期末	当中間期末
	2024年3月31日現在	2024年9月30日現在
資産の部		
流動資産	220,891	208,327
固定資産	133,326	139,665
有形固定資産	101,448	108,057
無形固定資産	3,773	3,643
投資その他の資産	28,106	27,965
資産合計	354,217	347,992

連結損益計算書(要旨)

科 目	前中間期	当中間期
	2023年4月 1日～ 2023年9月30日	2024年4月 1日～ 2024年9月30日
売上高	155,538	161,037
売上原価	135,555	143,551
売上総利益	19,983	17,486
販売費及び一般管理費	10,042	11,571
営業利益	9,941	5,915
営業外収益	2,166	1,729
営業外費用	2,111	1,509
経常利益	9,996	6,135
特別利益	140	1,407
特別損失	120	198
税金等調整前中間純利益	10,016	7,344
法人税等	3,545	2,283
中間純利益	6,471	5,061
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△1,390	△5
親会社株主に帰属する中間純利益	7,861	5,066

科 目	前期末	当中間期末
	2024年3月31日現在	2024年9月30日現在
負債の部		
流動負債	107,925	97,793
固定負債	44,862	43,260
負債合計	152,787	141,053
純資産の部		
株主資本	172,300	174,113
その他の包括利益累計額	22,340	26,274
非支配株主持分	6,790	6,553
純資産合計	201,430	206,939
負債・純資産合計	354,217	347,992

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

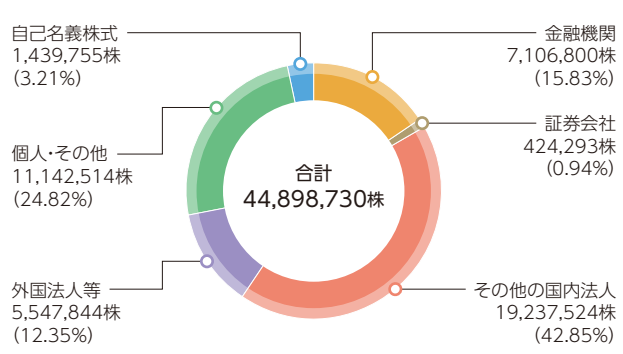
科 目	前中間期	当中間期
	2023年4月 1日～ 2023年9月30日	2024年4月 1日～ 2024年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	8,879	15,008
投資活動による キャッシュ・フロー	△7,006	15,091
財務活動による キャッシュ・フロー	△12,883	△11,515
現金及び現金同等物に係る 換算差額	843	956
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△10,166	19,541
現金及び現金同等物の 期首残高	32,421	26,094
現金及び現金同等物の 中間期末残高	22,254	45,635

株式の状況 (2024年9月30日現在)

発行可能株式総数	150,300,000株	
発行済株式総数	44,898,730株	
株主数	19,082名	
大株主		
株主名	持株数	持株比率 ^{※1} ^{※2}
日本製鉄株式会社	11,592,932 株	26.68 %
高島 秀一郎	4,347,460	10.00
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,949,400	6.79
高島 成光	2,233,000	5.14
三井物産株式会社	1,470,000	3.38
合同製鐵株式会社	1,347,000	3.10
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ エア・ウォーター株式会社退職給付信託口)	1,308,900	3.01
エア・ウォーター株式会社	1,291,500	2.97
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	863,100	1.99
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ エア・ウォーター防災株式会社退職給付信託口)	692,000	1.59

※1 持株比率は、小数第3位以下を四捨五入して表示しています。
※2 持株比率は、自己株式 (1,439,755株) を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況 (2024年9月30日現在)



会社概要 (2024年9月30日現在)

商 号	共英製鋼株式会社 (KYOEI STEEL LTD.)
設 立	1947 (昭和22) 年8月21日
資 本 金	185億16百万円
従業員数	3,926名 (連結：正社員)
主な事業	(1) 鋼片、各種鋼材、鉄鋼製品の製造・加工・販売 (2) 一般・産業廃棄物、医療廃棄物の収集・運搬・ 処分業および自動車リサイクル事業ならび に廃棄物再生資源化事業 (3) 鉄筋・ネジ鉄筋加工と組立工事
関係会社	共英産業 (株) (株) 共英メソナ 共英リサイクル (株) 共英加工販売 (株) (株) 吉年 ビナ・キョウエイ・スチール社 キョウエイ・スチール・ベトナム社 ベトナム・イタリー・スチール社 チャー・バイ・インターナショナル・ポート社 ビナ・ジャパン・エンジニアリング社 ビントン・スチール社 アルタ・スチール社 中山鋼業 (株) 他

役員 (2024年9月30日現在)

代表取締役会長	高島 秀一郎	副社長執行役員	菅 哲哉
代表取締役社長	廣富 靖以	上 席 執 行 役 員	橋本 公宣
取締役・副社長執行役員	坂本 尚吾	上 席 執 行 役 員	川上 浩生
取締役・常務執行役員	国丸 洋	上 席 執 行 役 員	松本 哲哉
取締役・常務執行役員	北田 正宏	上 席 執 行 役 員	西村 周
取締役・常務執行役員	川井 健司	上 席 執 行 役 員	林 進
取締役・上席執行役員	横山 政美	上 席 執 行 役 員	岩佐 博之
取 締 役 (社 外)	山尾 哲也	上 席 執 行 役 員	藤岡 進一
取 締 役 (社 外)	川邊 辰也	上 席 執 行 役 員	上道 雅丈
取 締 役 (社 外)	船戸 貴美子	執 行 役 員	中谷 進亮
取 締 役 (社 外)	松家 優香子	執 行 役 員	宮村 明央
常 勤 監 査 役	前田 豊治	執 行 役 員	米村 泰宏
監 査 役	市原 修二	執 行 役 員	沢村 真人
監 査 役 (社 外)	介川 康弘	執 行 役 員	増田 晶紀
監 査 役 (社 外)	宗岡 徹	執 行 役 員	丸山 静一
		顧問・フェンダー・名譽会長	大北 剛
			高島 成光

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会 毎年6月
基準日 3月31日（その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。）
定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当を行う場合 9月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎0120-782-031（土日休日を除く9:00～17:00）
公告の方法 電子公告とします。
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引市場 東京証券取引所プライム市場
証券コード 5440

—株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について—
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株主優待制度について

当社は、長期にわたり当社株式を保有いただいている株主の皆様のご支援に感謝するとともに、今後より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的として、株主優待制度を設けております。
なお、2024年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録されている株主様より、「継続保有期間1年」の認定条件を変更し、毎年3月31日を基準日として、当社株主名簿に、同一株主番号で3回以上連続して100株以上の保有株式数が記載された株主様を対象とします。

保有株式数および継続保有期間に応じ、以下の優待品をお贈りいたします。

優待品／ QUOカード	保有株式数	継続保有期間	
		1年未満	1年以上
	100株以上1,000株未満	1,000円分	2,000円分
	1,000株以上	2,000円分	3,000円分

共英製鋼株式会社

〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館18階
TEL 06 (6346) 5221 (代表) URL <https://www.kyoeisteel.co.jp/>



株主の皆様の 声をお聞かせください

コエキク

当社は、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにて
ご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り
▼

QRコードは
株式会社デンソーウェーブ
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 ☒ koekiku@pronexus.co.jp



IRメール配信 サービス を実施しています。

最新のIRニュースや適時開示情報等を、
ご登録のメールアドレスにお送りいたします。
以下のURLよりご登録手続きください。

<https://www.kyoeisteel.co.jp/ja/ir/mail.html>

